



彩り美しく豊富な前菜

エーゲ海沿いのチャナックカレーのホテルでのバイキングの前菜は豊富だが、これらの食材がほとんど自給自足できるといわれるトルコ

トルコは世界有数の農業国である。多彩な食材が世界三大料理の一つといわれるトルコ

### 「食」豊かなトルコ

の食文化を支える。元来が遊牧民族なので素朴な料理からオスマン朝の宮廷料理まで種類も多い。



からすごい。移動のバスの中で現地ガイド氏は「トルコは食糧自給率は一〇〇%」と誇らしげに言った。彼は中央アナトリアの中心都市、カイセリの大学で日本語を学び、日本にも何度か来たことがある親日家である。

トルコの歴史はもろん日本の歴史や最近の状況にも詳しく、日本の食糧自給率が低いことも知っていた。つい先日、日本の食糧自給率が三九%に落ち込んだことが大きく報道された。

今、日本国内では中国産のギョーザに有毒物質が混じっていたことが大問題になっていた。安全性もさることながら、問題の本質は戦争になったら…、ガイド氏の言葉。

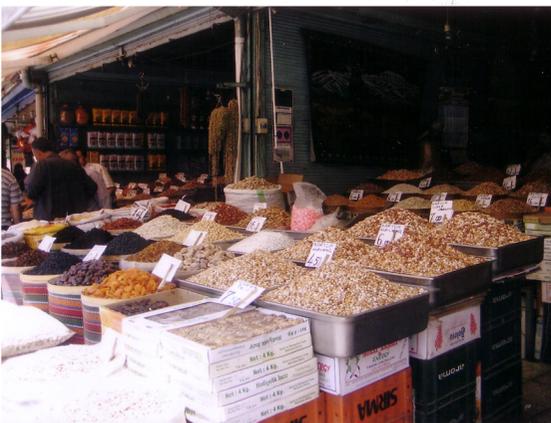


小麦粉で生地を作り、いろんなものを包んで焼く

「食」という国民に最も大切なものを六割以上も外国に依存していることにあるのではないだろうか。食に限らず、利益のために人件費の安い国外に生産拠点を移し、国内が空洞化する傾向があるが、こんな豊かさで日本の将来は大丈夫なのかと考えさせられる。

食糧自給率はオーストラリア二三七%、カナダ一四五%、アメリカ二八%、フランス一二二%…先進国の中でも日本は飛び抜けて低い。気になるので主食の穀物の自給率を調べてみた。稲作文化を誇った日本は何と二八%。食糧自給率と同じ傾向である。

「小麦粉と小麦粉を使つたすべての料理はトルコでは神聖なもので、パンをゴミ箱に捨てることは罪悪。過つて落としたり拾い上げて接吻する」子どもどころ、一粒の米でも無駄にしたら罰が当たるといわれたことを思い出した。トルコは「食」の豊かな国である。（元山口放送取締役ラジオ局長）



豊富な豆や乾燥果実